

衆議院厚生労働委員会ニュース

平成 23.8.3 第 177 回国会第 25 号

8月3日(水) 第25回の委員会が開かれました。

1 派遣委員からの報告聴取

- ・東日本大震災被災地における雇用・失業対策等の実情調査のため、福島県に派遣された委員を代表して、牧委員長から報告を聴取しました。

2 厚生労働関係の基本施策に関する件

- ・細川厚生労働大臣、小宮山厚生労働副大臣、大塚厚生労働副大臣、篠原農林水産副大臣、松下経済産業副大臣、園田内閣府大臣政務官、笠文部科学大臣政務官、岡本厚生労働大臣政務官、小林厚生労働大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

福田 衣里子君(民主)

- ・B型肝炎訴訟を機に国家賠償の財源の在り方について新たなスキームを構築すべきと考えるが、厚生労働大臣の考えを伺いたい。
- ・管内閣総理大臣のブログによれば、B型肝炎の発症を抑える治療薬の研究開発に対する強い要望を受けて厚生労働大臣に指示したとあるが、厚生労働省として、どのような計画でいつまでに研究開発を進めていくのか具体的な方針を伺いたい。
- ・経済産業省原子力安全・保安院からの要請により東京電力が福島第一原子力発電所の復旧作業で50ミリシーベルトを超える作業員の人数を試算していたことが判明したが、最近までこれを公表しなかった理由及び試算で示された人数は過大であるとの指摘に対する見解を経済産業省から伺いたい。

樋口 俊一君(民主)

- ・来年6年制教育課程を受けた薬剤師が誕生するが、これを踏まえて人事院は国家公務員薬剤師の俸給表の見直しを行うのか伺いたい。また、6年制卒国家公務員薬剤師の初任給についての見解も併せて伺いたい。
- ・東日本大震災の復興予算に充てるため転用された年金財源の2.5兆円について、早急に穴埋めすべきと考えるが、厚生労働大臣の考えを伺いたい。

田村 憲久君(自民)

- ・各自治体において肉牛の全頭検査を実施するに当たり、政府が責任をもって検査機器を整備すべきと考えるが、厚生労働省の見解を伺いたい。

- ・牛肉の放射性セシウム検査について、部位によって検査値が違ふということについて厚生労働省はどのように考えているか、また、肉の部位の検査中の内臓の取扱いについて国として基準を策定すべきと考えるが、厚生労働省の見解を伺いたい。
- ・子どもたちの外遊びに関し、文部科学省は親の放射線量に対する不安をどのように取り除いていくのか伺いたい。

加藤 勝信君(自民)

- ・文部科学省は、幼稚園の園庭の土壌放射線量低減支援策について一律に1.0マイクロシーベルト以上を対象としているにもかかわらず、厚生労働省は、保育園の園庭の土壌放射線量低減支援策について3.8マイクロシーベルトで差異を設けているのは不合理であり、見直すべきではないか。また、これらの費用は東京電力の損害賠償の対象となることを確認したい。
- ・被災者を再雇用した中小企業に対して教育訓練費を補助する成長分野等人材育成支援事業の拡充について事業主に過大な負担をかけないよう実態に即した運用を行う必要性があるのではないか。
- ・かつての勤務先のがれき処理等を会社の指揮命令下で無報酬で行った場合にも雇用保険の失業等給付を支給すべきではないか。

古屋 範子君(公明)

- ・「社会保障・税一体改革成案」(平成23年6月30日)において新年金制度の制度設計を具体的に示さなかった理由と制度設計を示す具体的な時期を伺いたい。また、今国会に提出するとされていた第3号被保険者の記録不整合問題を解決するための法案は、次期国会に必ず提出するこ

とを確認したい。

- ・東京電力福島第一原子力発電所の事故収束作業に従事する労働者の被曝線量について生涯を通じて一元的に管理する必要があるのではないか。
- ・仮設住宅における介護等のサポート拠点の設置状況及び今後の方向性について伺いたい。また、介護等のサポート拠点の設置促進のため今後も予算措置を講ずべきではないか。

高橋 千鶴子君（共産）

- ・福島第一原子力発電所内で8月1日に過去最高値の毎時10シーベルト以上が測定されたことについて、何故今になってこれほど高い数値が検出されたのか。また、放射線量の高い領域がこれ以上発見される可能性はあるか。
- ・最高値が検出された当日に放射線測定業務に当たった作業員3名の身分と勤続年数を伺いたい。また、この作業で予測される放射線量を何ミリシーベルトと労働局に届け出たのか伺いたい。
- ・4月1日に経済産業省原子力安全・保安院が厚生労働省に要請した文書において、今後の緊急作業により100ミリシーベルト、50ミリシーベルトを超える者がそれぞれ約320名、約1,600名と試算されているが、根拠を示していただきたい。

阿部 知子君（社民）

- ・放射性セシウムに汚染された牛肉の出荷制限がなされたことについて、損害を受けた畜産業者をどのように支援していくか農林水産省の対策及び決意を伺いたい。また、出荷制限解除の条件を示していただきたい。
- ・高濃度の放射性物質が検出された稲わらを扱っていた農業従事者に対して健康診断を行うべきではないか。
- ・クーラーステーション単位で検査が行われているため、現時点では原乳から暫定規制値を超えた放射性セシウムは検出されていないが、これを濃縮し乳児用粉ミルクに加工する際には子どもが安心してミルクを飲むことができるように改めて検査体制を整えるべきではないか。

柿澤 末途君（みんな）

- ・東日本大震災被災地の医療支援のため、被災地における診療報酬の特例的加算を設けるべきではないか。
- ・被災地における訪問看護ステーションの一人開業の特例措置が申請先の自治体に認定されず実績を積み重ねることが出来ない現状に対する厚生労働省の見解を伺いたい。
- ・現在福島県の子どもへ供与されている累積放射線量を管理するフィルムバッジは空間線量がリアルタイムに表示されない。子どもが自ら放射線に対して回避行動を取れるような線量計を供与すべきではないか。

3 国民年金及び企業年金等による高齢期における所得の確保を支援するための国民年金法等の一部を改正する法律案（第174回国会閣法第41号）（参議院送付）

- ・提案理由の説明を省略することに協議決定しました。
- ・採決を行った結果、賛成多数をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成 民主、自民、公明、社民、みんな 反対 共産）
- ・柚木道義君外2名（民主、自民、公明）から提出された附帯決議案について、古屋範子君（公明）から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもってこれを付することに決しました。
（賛成 民主、自民、公明、共産、社民、みんな）